

2005年6月13日

日本 J/24 クラス協会理事会議事録

- 日時：2005年6月9日（木曜日）17時30分～20時
- 場所：ラグナマリーナ蒲郡内、レストランにて
- 出席者：久保田会長、早川氏、横田氏（東海）、岩出氏（関西）、宮崎氏（九州）、畠山（関東）6名
- ゲスト：高野氏（東海）、西畑氏（関西）2名、合計8名

1. 事務局からの報告

- 04年12月末ベースでの会員数は、正会員73名、準会員151名、計224名となり、03年に比べると、マイナス38名の減数推移となる。
- 上記会員数からなる年会費は1485000円になる。
- 03年度収支会計報告についての詳細は別紙参照。簡単に収支を述べますと、繰越金が12439771円あります。
- 03年収入が2921364円、03年支出が2235978円となり、単年度収支は685386円のプラス。
- 繰越金+03年度収支+仮払費3444円を引いて、次年度繰越金が13121713円となります。

2. 第24回 J/24 全日本選手権収支報告（宮崎氏より）：別紙参照

- 収入：エントリー費、レセプション、広告料で1701000円
- 支出：ハーバー使用料、セーリング連盟借用料、クレーン代金、レセプション他2122597円
- 収支：マイナス421597円
- 協会からの補助金をもらっていないので、後日九州フリートが協会に請求をする。

3. 各水域の活動報告

<関東>

- 年7回のフリートレース実施。他に関東選手権2回、ミッドサマー、ダブルハンドレースを行う。
- 新しい取り組みとして、各レースの際に1艇に1台のGPSを搭載して、レース終了後メールで配信。レースでのボートごとの航跡を見て、分析が出来る取り組みを行っている。
- 新規参入で、チャイナタウンは復活、ファラウェイは新しく加入した。
- 若い学生卒業したメンバーも増えているので、もっと増員できる取り組みを行うのが今後の課題。

<東海>

- 今回の全日本参加も3艇のみ。
- 増加するには難しい傾向が東海にはある。
- 学生を取り入れるように努力はしたものの、学生のレースで一杯の様子。

<九州>

- 先に述べた会計報告。
- 2月開催したミッドウインターでSLEDとドンキー8で抗議が上告を後日舵誌に掲載予定。
- 地震があり、ハーバーも凹凸があり、道路には隙間が出ている。みんな元気に活動を行っている。

<関西>

- レース志向になってきている。
- 新規の会員を増やす目的で、レース終了後にパーティーを開催している。
- 艇数を増やす努力を行っている。
- 次回全日本は関西の和歌山を予定。時期は9月、もしくは11月の前半か後半の連休を検討。きまり次第アナウンスを行う。

4. 検討された議案

- 理事を増やす。
- 全日本計測を簡易にして、参加しやすいレースにする。しかし、計測を3年か4年にフル計測を実施することで、縛りを入れる。抜け道を探し、計測違反することを防ぐ目的。
- 世界選手権の資格の件で、チーム、ヘルム、メンバー3人以上という条件を変更する。この件は会長一任になった。今年度の05年6月開催の全日本から適用とする。
- 各水域での大会（例：九州のミッドウインター、KYCレース、関東選手権など）で、世界選手権の権利を与えても良いのではないかという意見も出た。
- 日産マリーンでの事務局運営がスムーズではなく、今後別の機関で運営をしていく方向を検討。この件で、ビルダーのライセンスなどについて、久保田会長が一度話し、方向を決める。

5. 次回理事会は、12月のかしこじまで行う予定。

6. 備考：人事改選については、持ち越しとする。

以上